



つわの

6月定例会
議会だより



C56型蒸気機関車（通称ポニー）とD51の最後の重連

昭和14年製造から79年 昭和62年から山口線運行30年間

平成30年 第4回6月定例会

- 議長就任にあたって 2
- 主な条例改正、契約の締結 3
- 一般会計補正予算 4
- 一般質問 5～14
- 賛否表・全員協議会 15
- 請願・編集後記 16

No.51 (2018)

平成30年7月24日発行
島根県津和野町議会
TEL 0856-74-0089
E-mail gikai@town.tsuwano.lg.jp
印刷：津和野印刷



JR山口線C56さよなら重連 名賀白井トンネル付近
5月5日 沿線の道路と山道は鈴なりの人人人

議長就任にあたって

津和野町議会

議長 沖田 守



去る、4月22日投開票の津和野町議会選挙は、町政史上初めての無投票となり、12人の議員が就任いたしました。

人口減少、少子高齢化の進む我が津和野町を想うとき、誠に深刻な事態と受け止め、議会活動の在り方が、改めて問われていると強く感じます。

前期にも申し上げましたが、この津和野の地で生まれ育ち、終の棲家とする方々のためにも、「住んでよかった」と思える桃源郷の建設を目指さなければなりません。

その実現のため議会も町当局とともに、その役割を果たしていく決意であります。

浅学非才ではありますが、議会が真に町民の立場で議論し、常に公正・公平な議会運営を心がけ、議長として不偏不党の精神を貫きたいと存じます。

町民皆様方のご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



上段左より福田浩文議会事務局長、丁泰仁、草田吉丸、寺戸昌子、道信俊昭、板垣敬司、竹下由香里議会事務局書記
下段左より、三浦英治、御手洗剛、後山幸次、沖田守、岡田克也、川田剛、米澤右文

議長 沖田 守
副議長 岡田 克也
監査委員 御手洗 剛

総務経済常任委員会

委員長 川田 剛
副委員長 丁 泰仁
委員 後山 幸次
委員 米澤 右文
委員 御手洗 剛
委員 寺戸 昌子

文教民生常任委員会

委員長 三浦 英治
副委員長 草田 吉丸
委員 板垣 敬司
委員 沖田 守
委員 岡田 克也
委員 道信 俊昭

広報広聴常任委員会

委員長 米澤 右文
副委員長 寺戸 昌子
委員 岡田 克也
委員 三浦 英治
委員 川田 剛
委員 草田 吉丸

議会運営委員会

委員長 後山 幸次
副委員長 板垣 敬司
委員 川田 剛
委員 三浦 英治
委員 米澤 右文

主な条例改正

【賛否表は15ページ】

5月臨時会

◎津和野町税条例の一部改正

地方税法改正に伴い、町民税、町たばこ税率の割合を変更とするもの。

6月定例会

◎津和野町日原賑わい創出拠点施設の設置及び管理に関する条例の制定

山村開発センターの代替え施設としても利用できるよう、工事が完了している母屋蔵について制定。

母屋 1室 500円/時間
蔵棟 1室 250円/時間

◎つわの暮らし推進住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正

入居の申込時に、町外に居住していること等入居条件の改正。

◎津和野町国民健康保険条例の一部改正

医療・支援・介護の税率引上げに伴い、均等割り、平等割を改正。

◎津和野町伝統的建造物群保存地区保存条例の一部改正

審議会を町長部局から教育委員会部局に変更。

◎津和野町立小中学校施設設備の利用に関する条例の一部改正

小中学校の空調整備工事に伴い、冷暖房料を徴収できるよう改正。

【全て可決】

契約の締結

【賛否表は15ページ】

●藩校養老館調査保存修理工事請負変更契約の締結

随意契約

2億1950万7840円
(3007万5840円増)

工期

変更前 平成30年6月30日
変更後 平成30年12月29日

変更理由

図面と実際の柱の跡の差違
契約者 協和建設工業株式会社

●平成29年度津和野町立学校施設空調整備工事請負変更契約の締結

随意契約

1億1950万7400円
(245万5200円増)

変更理由

室外機に防護ネット設置、ケーブル増

契約者 堀建設株式会社

●平成29年度中座地区下水道管布設工事請負変更契約の締結

随意契約

5916万4560円
(1364万2560円増)

変更理由

近接する土地に新規に住宅
建設計画の判明等



日原賑わい創出拠点施設
完成の母屋、倉2棟

契約者

有限会社ナガヨシ技建

●小型動力ポンプ付普通積載車の取得

指名競争入札

津和野地区第2分団の消防車が取得後24年経過し老朽化しているため

864万円

株式会社吉谷

【全て可決】



藩校養老館保存修理工事
外装完成・内装完成12月29日

ケーブルテレビFTTH化第2期工事 島根わさびブランド化事業

平成30年度 津和野町一般会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ6億900万9千円を追加し、
予算総額86億6800万9千円を可決しました

※千円以下切り捨て

主な歳出

	補正予算	当初予算	総計
【総務費】			
ケーブルテレビFTTH化第2期工事	3億6993万円	新規	3億6993万円
【農林水産業費】			
島根型6次産業推進事業(島根わさびブランド化)	843万円	新規	843万円
林業公社への除伐等委託料	612万円	新規	612万円
林道大久保線改良工事請負費及び委託料	1442万円	新規	1442万円
町内高津川への7万尾以上の稚鮎放流事業委託料	200万円	新規	200万円
【商工費】			
日原賑わい創出施設整備事業カフェ棟建設工事	1933万円	新規	1933万円
津和野駅周辺整備事業電柱移転補償費	1200万円	新規	1200万円
殿町から稲成丁間の照明設備工事	5212万円	新規	5212万円
稲成丁河川広場等測量設計業務委託料	570万円	新規	570万円
【土木費】			
県道柿木津和野停車場線中座工区開通式経費	219万円	新規	219万円
道路新設改良費	△3230万円	3億624万円	2億7394万円
道路橋梁点検業務等委託料	1406万円	432万円	1838万円

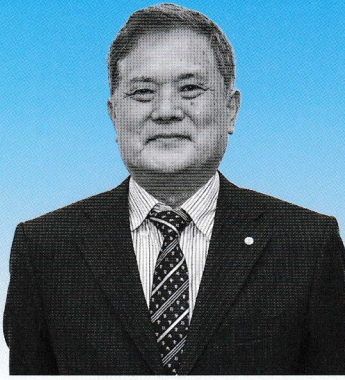
主な歳入

【国庫補助金】			
都市再生整備事業費補助金(津和野駅整備等)	3142万円	5754万円	8896万円
社会資本整備総合交付金(道路新設改良等)	△5340万円	2億2497万円	1億7157万円
地方創生道整備交付金(道路新設改良)	△900万円	3000万円	2100万円
【県補助金】			
島根型6次産業推進事業費補助金	529万円	新規	529万円
【繰越金】			
平成29年度剰余金	9192万円	新規	9192万円
【町債】			
過疎対策事業債(FTTH化第2期工事)	3億6990万円	新規	3億6990万円
過疎対策事業債(島根型6次産業等)	500万円	新規	500万円
過疎対策事業債(日原賑わい創出等整備事業)	5330万円	1億4590万円	1億9920万円
辺地対策事業債(林道大久保線)	1440万円	新規	1440万円
公営住宅建設事業債(町営住宅ストック改善事業)	1750万円	4540万円	6290万円
一般単独事業債(町道防災対策事業)	1220万円	3790万円	5010万円
辺地対策事業債(道路橋梁整備事業)	4500万円	8140万円	1億2640万円
過疎対策事業債(笹ヶ谷線外4路線道路整備事業)	1590万円	7300万円	8890万円
～基金～			
津和野町減債基金			

平成30年度当初 **3億381万円**

6月補正 **4600万円**

平成30年6月末 **3億4981万円**



道信 俊昭 議員

Q 役場本庁舎を「殿町」に

A 現実的でない

問

最大の大義名分は、「殿町は坂崎出羽守が津和野に居城を構え執務室を殿町に置いてから400年間、行政の中心であったこと」による。

具体的な理由をあげる。まず、本庁舎というのは、

国や県や他の市町村から多くの来賓や職員が訪れる。只の事務所ではない。

町の顔であり、玄関であり、応接間でもある。

観光というおもてなしもできる。

次に、災害に対して、本部というのは、警察署・消防・県土木事業所、入院設備のある病院、ヘリポートが集積した場所であり、さらには最悪の場合に徒歩で行き来できることが必要。

そして、観光客のほぼ全ての目的地は殿町である。

車のナビに「津和野町主要部」と入力したとき、予想せぬ場所に到着して戸惑った観光客の声を多く耳にした。

さらに、徳佐からの最後のトンネルを抜けた時、国道9号線の交通標識看板には「津和野まで14km」とあ

るが、すぐ近くに設置された道路標識には、「津和野城下」というなごみの里への左折をうながす案内矢印が出てくる。

問 津和野庁舎の位置が土砂災害警戒区域というが、警戒区域というのは避難場所や避難経路をハザードマップに掲載して、町民に警戒を促す事を要件としたものである。

町長 この議場を集会施設としたい。ただ、今の財政を考える。と新設は困難である。

最後に、日原庁舎を全面津和野に移設するのではない。

機能だけ交換する。つまり本庁舎と分庁舎の呼び方を入れ替えることを提案するものである。

町長 本庁舎の位置は、合併協議会の議論の結果、現在の場所に決定した。

わずか13年でそれを動かすことについては、旧日原町に関係する多くの人の合意を得るのは難しい。

また、議会における特別議決として3分の2以上賛成を得なければならない。

また、本庁舎は災害対策本部となる場所であるが、津和野庁舎と隣接地は災害警戒区域内にあり防災面から適地ではないことや議場と共に本庁舎を設置すると

もなると増築にかなりのスペースを要し、財政面でもかなりの負担となる。

現実的でないので検討する状況でない。

問

今の議場が津和野に移転すれば、この場所が空くわけで、ここに200人が入る「日原山村開発センター」を新設してはどうか。

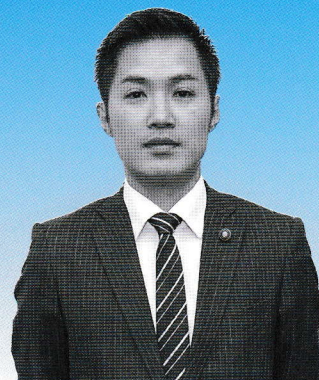
日原中央公民館と日原公民館も。



殿町通り

Q 放課後児童クラブ支援員の不在期間は

A 32日間不在であった



川田 剛 議員

問

今年度より、4つの放課後児童クラブが民間事業者に委託された。

職員の研修について、町直営では実施できなかったとのことであるが、以前は実施されており、案内等も配布されていたと聞く。近年研修がなかったことはなぜか。

今年度からは以前のように実施されているのか。それとも以前行われていた研修以上のものが実施されているのか。

町長 町として独自に行ってきたではない。今年度からは委託業者から「研修の機会」は設けられているとのことである。先般も研修を実施し、今後も予定されているとのことである。

問

職員不足の改善について、4月当初において、支援員が配置されていない児童クラブがあると聞くが、委託民間事業者から派遣の対応等、支援員の配置があったのか。不在期間はどれくらいか。

町長 5月に入り、判明した。委託業者には早急に対応するように指導した。32

日間不在であった。

問

一般的に支援員が配置されていない事業所について、県に確認したところ、国及び県の補助金は交付されないとのことであったが、どのように対応されるのか。

町長 基本的に支援員不在の32日間については補助対象外となるが、開所日（284日）から不在期間32日

教育現場の処遇を改善すべき

会計年度任用職員の導入を機会に検討する

問

津和野町立中学校からの津和野高校入学者数の推移について所見を問う。

教育長 毎年40%から50%の間で推移していたが、昨年度は過去最低の36・4%であった。

問

中学生の学力・体力向上の取り組みについて所見を問う。

教育長 学力向上については、学力調査の結果を分析し、学力育成プランの修正や、指導主事の学校訪問による指導助言を行っている。

年度末に、振り返り、次年度への資料を作成し、取

間を差し引いた日（254日）が補助金交付の基準日（250日）を超えているため、補助額に変更はない予定である。

問

今年度から委託された放課後児童クラブの中で、地域住民での運営を希望した場合、契約上は可能か。

町長 可能である。

り組みの引継ぎができるようにしている。

体力向上については、「自校の体力的課題の解決に向けて」また「運動の二極化を防ぐ」ための授業の工夫・改善や準備運動にランニングやサーキットトレーニングを取り入れるなど、それぞれの中学校で工夫して体力づくりに取り組んでいる。

問

多くの教育移住者に対し、寮や下宿など県、町がどのように対応されているのか問う。

教育長 空き家バンクの紹介をしている。

また、一時的な居住施設

としてお試し暮らし住宅やシルクの里交流館の提供を行っている。

高校の寮については、喫緊の課題であるが、NPO団体等と協議しつつ、下宿等の支援を検討したい。

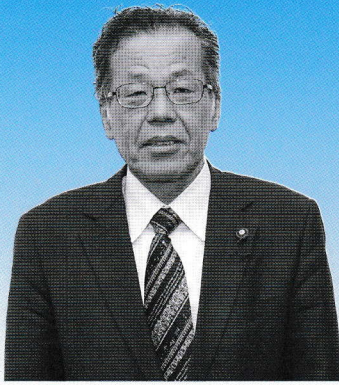
問

高校のみならず津和野町の教育現場に携わって戴いている方々には集落支援員、地域おこし協力隊、後援会採用職員などがあるが、保有資格やスキル、キャリアなどさまざまな点がある。

今後も津和野町でその能力を発揮してもらうためにも、個々の能力に応じて処遇を検討すべきと考えるところを問う。

教育長 会計年度任用職員の導入に併せ検討したい。





三浦 英治 議員

Q 「集落」の維持支援は

A 具体的な支援策を検討する

問 共同体としての集落維持が限界に達している「限界集落」は、65歳以上の人口が50%を超えると限界集落になる。

人口の50%以上が、55歳以上になると準限界集落となり、少し人口流出が進むと限界集落化する。

65歳以上の人口が70%を超えてくると「危機的集落」と考えられているが、「限界集落」「危機的集落」それぞれ行政区でどのくらいあるか。

また、支援策としては、**町長** 津和野町の高齢化率

感染症外来施設は

協議している

問 活用はどうなっているか

町長 発熱外来施設は平成22年に建設されたが新型インフルエンザの発生はなく、施設の有効利用を検討して

旧日原町名の文化財の看板は

徐々に改修する

問 新津和野町として合併して12年が経過した。

合併後、町の文化財に指定されている所の看板等で、

は、47・2%であり、全町内115行政区のうち、「限界集落」は49行政区(42・6%)、「危機的集落」は12行政区(10・4%)である。

人口減少や高齢化が進むことが予想される中で、地域を支える担い手不足などが進み、共同体としての運営が成り立たなくなる集落も増加することから、特に、危機的集落には、重点支援策を講じる必要性を感じている。未来づくり協議会議やまちづくり委員会と話し合いを持ちながら検討する。

いる。

当町には診療科がない精神科を有する病院のサテライト的な診療所として活用できないか、益田市内の病院と協議している。

いまだに旧日原町名のみまで表示している箇所はどのくらいか。

教育長 旧日原町の文化財指定は12件、この内、看板

と標柱がセットで設置しているものが6件の内の県指定文化財の「三渡八幡宮本殿」「大本神社の樟」については改修している。

未だに旧日原町教育委員会表記のままのものがあり、看板と標柱がセットで設置

『地芝居』の支援は

調査を行う

問 文化財は、作ろうと思ってもすぐにできるものではなく、長年の歴史の中で培われてきたものであり、先祖から伝承し、後世に引き継いでいかなければならぬ大切なものである。

民俗芸能として各地域で、戦中戦後に「地芝居」が途絶えた中で、町内では、唯一木部、中曽野の富長山(とみたけやま)八幡宮例祭で『地芝居』が、今年の秋、9月23日に3年に1回の上演が開催される。

昭和30年代から20年間の中絶があったが、40年前の昭和51年に、中曽野八幡宮例祭で途絶えていた芝居が復活された。三つの大字(山下、中曽野、吹野)で順番に演じていたが、平成9年からは中曽野地区が地芝居を続けている。

高齢化による後継者の問題、山下歌舞伎保存会が管理している衣装の維持管理等、地芝居を維持すること

してあるのが5件、看板だけ設置してあるのが5件となっている。

当初予算で看板10件分の予算措置がされているので、看板の改修を行う。

標柱については予算措置が出来しだい改修したい。

が大きな課題となっている。

この『地芝居』を維持継続するには大変なエネルギーがいる。町として支援することは。

教育長 木部村史によると、明治30年頃、吹野金毘羅神社の秋祭りで上映したのが木部地区における地芝居のはじまりだと言われている。

現在、その地芝居を受け継いでいるのは、中曽野地区だけになっている。

3年に1回の当番制で、上演に向けて準備・練習をされ、維持継承しているエネルギーには、敬意を表する。

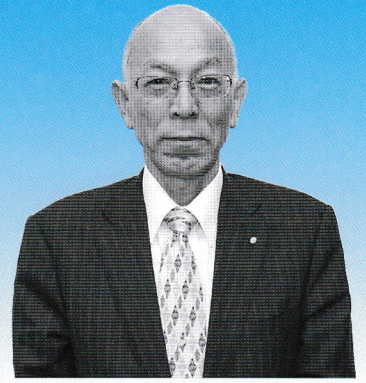
現在は、上演時の寄付でなんとかまかなえているとのことですが、今後は「伝統芸能」という観点から調査を行い、地域の意見も伺いながら、将来的には文化財指定を検討する。

【その他の質問】

○共存病院と大庭政世氏の産業組合「青原組合医院」設立から100年について

Q 町議会議員選挙について

A 自ら意欲的に担っていこうとする方が
少なくなっているのでは



板垣 敬司 議員

問

平成30年4月22日に執行された町議会議員選挙は、合併前の旧町時代から、初めて経験する無投票という選挙結果であった。

全国的な動向とはいえず、町政に対する住民の関心の低さが大変憂慮される。

町長 私もかつて8年間、議員を務めた。有権者からの信任を得ることの大変さや町政をより専門性をもって学び、判断して町民代表としてチェック機能を発揮することの責任の重さを感じてきた一人。

町政を深く知る立場で判断したことが、時に支持者

つわの清流会の財政状況について

減収の見込み

問

今年4月の障害者福祉サービス報酬の改定を受け、新聞報道では、一般就労が難しい人を対象とする「就労継続支援B型」を手がける事業所では、全国で約7割の事業所が減収になる見込み。

一般就労への定着実績に応じた報酬体系の導入など、事業所の努力を促す内容と

から厳しいご意見を頂くこともあり、議員という身分の辛さや信念を貫くことの大変さを経験してきた。

無投票が町政に対する町民の関心の低さとの指摘ですが、私は、時代の移り変わりの中で、そうした時に辛さを伴う重責を、自ら意欲的に担っていこうとする方が少なくなっているのではないかと思っています。

町長である私をはじめ、議員の皆様方と共に、活発な議論や行動する姿を町民の皆様を理解して頂くことが、次の意欲を持った人材を生み出すことに繋がると考える。

なっている。つわの清流会における影響と財政見込みはどうか。

町長 「就労継続支援B型」事業については、前年度の平均工賃月額によって報酬単価が決まることになり、安定している「つわぶきの里」には影響がないが、「わさびの里」では年間30万円程度の減収が見込まれる。

文化財保護行政の見通しは

歴史的風致維持向上計画は平成34年度まで

問

歴史的風致維持向上計画によって、藩校養老館の修復をはじめ、空き家活用事業、津和野駅周辺整備等進捗をみている。

計画にある藩邸跡公園整備や見晴らし広場・棚田公園整備事業のこれからの取り組みについて問う。

町長 歴史的風致維持向上計画は、平成25年4月に策定し、期間は平成34年度までの10年間となっている。

現在、津和野駅周辺整備事業に取り組んでいるが、豪雨災害復旧事業やFTTH化事業など、大きな財政負担を伴う事業に取り組む必要が生じたなかで、藩邸跡公園整備事業では、津和野高校つわぶき寮の移転が課題になるなど、総合的に検討する中で計画の見直しも考えざるを得ない状況にある。

で、「つくしんぼ」では200万円から300万円程度の減収になる見込みである。

問

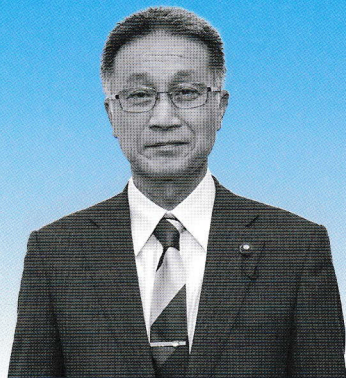
見晴らし広場のイメージはどのようなものか。

町長 国道9号線から町並み、城跡が見渡せる場所を、何力所か想定しているが、空き家物件等の解体撤去など課題を抱えている。

【その他の質問】

○アクティブシニア総活躍事業の実用化について
○平成30年度経営所得安定対策について





草田 吉丸 議員

Q 合併後の一体感の醸成の評価と今後の視点は

A 一体感の醸成なくして明るい展望はない
これまで以上のご理解とご協力をお願いする

問

平成30年度施政方針で町長は総合的なまちづくり施策の中で「第2次津和野町総合振興計画」に則り、「人と自然に育まれ、温かみのある交流のまちづくり」を実現するため、引き続き町民の「一体感の醸成」を図りながら、住民参加のまちづくり体制を整備し、諸施策に取り組んでまいりたいとの考えを示された。

そこで次の点について質問する。

町民の「一体感の醸成」については合併後、行政及び民間各種団体・組織そして個人がそれぞれの立場で努力してきたと考える。

行政として現時点までの両地域の一体感の醸成についてどのように評価されているか。また合わせて今後さらに両地域の交流を進めていくためにどのような視点で取り組まれるのか。

町長 合併以降、それぞれそれぞれの地域で育まれてきた個性や魅力を大切にしながら、住民相互の交流を活性化することで新町の一体感の醸成に努めてきたところである。

平成24年度には12の公民館エリアに「まちづくり委員会」が設置され、地域の身近な課題解決に向けて地域が一体となった取り組みを進めている。

未来づくり協議会を通じてお互いの地域におけるそれぞれの課題を共有し、認識し町全体の課題としてとらえることで、一体感の醸成にもつながっていると考える。町民間の交流による人と人とのつながりも重要と考えており、交流促進を目的とした、津和野町長杯グラウンド・ゴルフ大会を開催するなど、地域を超えて交流できる取り組みを行っている。

少子高齢化が進行する中、とりわけ山間部等、人口減少が進んだ地域においては、地域コミュニティを維持することが困難な状況になってきている。

今後はまちづくり委員会が中心となって、地域提案型助成事業等の活用により、地域コミュニティの再生を図っていききたい。一体感の醸成なくして当町の明るい将来は展望できないと

思っている。

津和野町総合振興計画の柱でもある「一体感の醸成」をさらに進めるために、行政としてもこれまで以上の

にちはら道の駅広場にヘリポート整備を

関係機関と協議したい

問

緊急搬送用ヘリポートの、町内における離着陸場の一覧と整備状況は。

町長 現在離着陸場として登録してあるのは、喜時雨グラウンド、津和野中学校校庭、木部小学校校庭、日原カントリーパーク、日原中学校校庭、なごみの里前ヘリポートの6カ所である。このうちヘリポートとして整備したものはなごみの里前の1カ所である。

問

近年の利用状況は。

町長 本年の利用は3件あり、カントリーパークに2回、なごみの里前ヘリポートに1回着陸している。

昨年は4事案あり、カントリーパーク、なごみの里前ヘリポートにそれぞれ2回着陸している。

問

離着陸場の整備状況による問題点と課題は。

町長 ヘリポート以外の場所については、着陸前に散水する必要があり、消防分遣所に応援要請

努力をしてまいる所存である。

議会や町民の皆様にも一層のご理解、ご協力をいただくようお願いする。

して散水する場合や、役場勤務の消防団員に呼びかけて散水をする場合がある。

場合によっては、ヘリコプターが上空で待機することもあり、散水の必要のない芝か舗装したヘリポートの整備が望ましく、また国道沿いになれば利便性が高いと考える。

問

今後の整備計画は。

町長 今後の整備計画は現時点では計画されていない。

問

日原地区にも整備したヘリポートはできないか。日原道の駅には広場があり国道沿いでもあり最適地と考えるがいかがか。

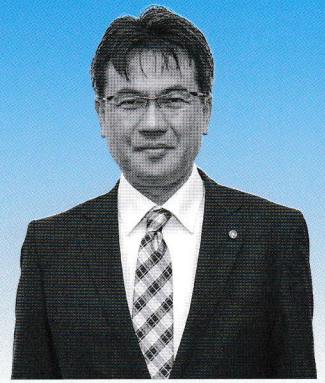
町長 現時点での計画はないが、今後関係機関とも協議していききたい。

【その他の質問】

○防災対策について
○テレビ見守り・買い物支援について

Q 適正役場職員数は何人か

A 現在 135 人、適正 122 人で
16 人超過の現状である



岡田 克也 議員

問

合併算定替えの交付税も年次毎に大幅に削減され、人口減少に伴う交付税の減少や税収減など、近い内に基金も大幅に減少し、財政が極めて逼迫することは確実である。

補助金や負担金の見直しや削減、民営化での財政負担軽減や繰り上げ償還などを行い、子どもたちの世代にツケを残さないように、厳しくても早急に財政健全化対策を行うべきと考える。適正職員数と現況と対策を問う。

町長

平成34年度普通交付税は、平成18年度普通交付税と比較して4億1377万円減となると見込んでいる。基金残高は財政調整基金が4億9182万円減の5億1879万円、減債基金

旧日原共存病院建物の2・3階の用途は何か

緊急時防災施設・避難所・会議室等に活用して行きたい

問

せせらぎ移転後、旧日原共存病院建物を廃屋にしないためにも、新耐震基準を満たしている当建物の1階は庁舎として使用する方針が出され、議会の特別委員会でも同意を得た。しか

は1億4933万円減の5802万円と推計している。豪雨災害の復旧対応のため定員管理計画は策定できない状況であったが、適正職員数は122人と試算しており、平成32年までに組織の統廃合も含めた定員管理計画の見直しを行う予定である。

問

民営化した木部・直地保育園は経営も黒字で、保育士も集まり、保護者からの評判も良い。民営化による町の財政負担軽減はいくらか。町営保育園の段階的な民営化の検討は行っているのか。

町長

年間に1園2千万円の合計4千万円程度の財政負担軽減となっていると思われる。民営化の検討は行っている。

て問う。

町長

2・3階は積載荷重180kg/m²以下の利用に限定されるが、規制の範囲内で他用途での利用は可能と考える。防災施設や会議室以外でも町民の利便性やサービス向上が

図れるような用途の検討を進めたい。

発熱外来施設は診療所として活用できないか

精神科を有する病院のサテライト的活用の協議を行っている

問

発熱外来施設を診療所として活用すれば、2階まで上がらなくてもよく、空き建物の活用にもなるのではという声を聞くが、使用は可能か。

町長

発熱外来として建設されたので、出入口が一方向きしかなく、診療所としては使いにくい。精神科のサテライト診療所としての活用を益田市の病院と協議している。

せせらぎの病院3階への移転後の不安があるが

医療介護の連携がスムーズになり、介護サービスの充実が可能

問

現在のせせらぎの雰囲気と職員の対応が好評である。せせらぎが病院3階に移転した後に、現在の雰囲気は保てるか不安の声を多々

町長

移転後も良い雰囲気と生活の場を壊すことなく、医療・介護の連携で充実させたいとの旨を橋井堂から伺っている。

外国人宿泊者対策等、町内宿泊者の増加対策を

効果的なインバウンド対策を講じていく

問

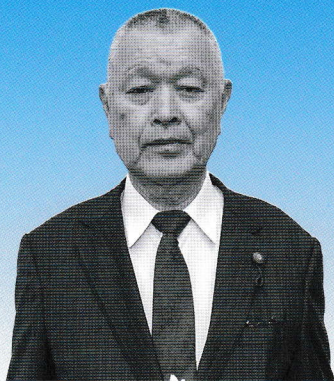
ベジビ北斗星や町内宿泊所の閉鎖等、宿泊者が減少している。ベジビ北斗星の営業再開の目途は。

町長

ベジビ北斗星のテナント事業者の募集を継続し、天文台の運営も場合によっては委託を検討する。

近年、外国人観光客が増加している。商業後継者にヨロップの方も就業された。外国人宿泊者増加対策を層講して行くべきでは

訪日客に人気の観光地の上位を西日本が占める。津和野地区のWiFi環境整備工事も進んでおり、層の充実を図る。



米澤 宏文 議員

Q 町道森野坂線の県道昇格の進捗状況は

A 県道編入、改良整備を県に要望している

問

町道森野坂線の新橋・森三差路間1Kの県道昇格の要件として平成26、27年に森野坂地区の一筆調査が始まり、28年度に完了している。

これに伴う県道昇格の見通しは。

県道昇格後の側溝を整備し歩道の確保計画はあるか。

津和野警察署から郷土館まで道路両側に1.3mの側溝が有る、この間の側溝未整備カ所を整備すれば安全な歩道になる。

特に警察署から森三差路間の町道森野坂線は未整備であり小、中、高校生の通学路であり、また町民・観光客など多くの方が歩道の無い道路を通行している。

「中座バイパス」が8月4日に開通すると大型観光バスや大型トラックまた乗用車などの通行が激増すると思われる。

また、新橋から森方面へ10



新橋から森方面へ100mの区間、小、中学生、町民、観光客の方が通行する中座バイパス開通で大型バスや乗用車が激増



0mの間は道幅狭く大型車同士が離合できない箇所であり、危険な通学路そして一般の方も多く通行される道路である。早期の道路改良が必要ではないか。

町長 森野坂線の県道昇格の進捗状況は編入要件として◎町の道路網整備のビジョン。◎警察署側の水路遺構の整理。◎歩道が両側に必要か。◎用地境界の明確化。◎道路両肩部の電柱移転が可能か。◎水路を歩道にした時、車の駐車ができない。以上の要件でクリアしているのは、水路遺構の整理と地籍事業の用地境界の明確化である。

これまで、森野坂線県道編入と改良整備を「鹿足土木協会」が県に要望。

町道森野坂線の新橋から森方面へ100m区間は平成24年に道路改良の要望書を頂いている。

県道編入に併せ改良整備を図る。これからも引き続き県道編入、改良整備推進を図っていく。

問

無電柱化計画を県に申請を。

観光津和野の南の玄関なごみの里から町中心部への進入路となる新橋郷土館まで1.5

明るい観光地に相応しい広い空松江市大手前通り1Km 無電柱化5月完成 市内県道3000kmの内主要道路90km完成



駅舎にテレビの設置を

駅舎取得後設置する

問

JR 駅舎待合室に観光用のテレビ設置で、観

光客の更なる誘致を図るべき。駅前開発計画で改築時期は何時か。

SL津和野駅改札前から多くの乗客が駅に集まり、何もすることなく改札を待っている。

JR 駅舎待合室 ただ待っただけのSL乗客 450人 この間に町の主要行事の観光宣伝を



Kmの要望書を県に提出し観光地に相応しい広い空と電柱撤去で歩行者に優しい歩道の整備が必要ではないか。

町長

無電柱化の計画については共同電線類の地中化は橋北の殿町、本町、祇園丁、駅通りの区間を整備している。

新橋・郷土館間については主要な幹線道路であり観光地に相応しい通りとして景観対策や防災面の観点からも無電柱化を推進する必要がある。

待ち時間を利用して町の年間行事の1月「稲成神社初詣」から4月、5月、7月の神事等。「日本3大芋煮」また「津和野城跡」などの名所、「高津川の鮎」「わさび」「うずめ飯」などを放映し観光客の誘致と山口線の利用促進を図ってはどうか。

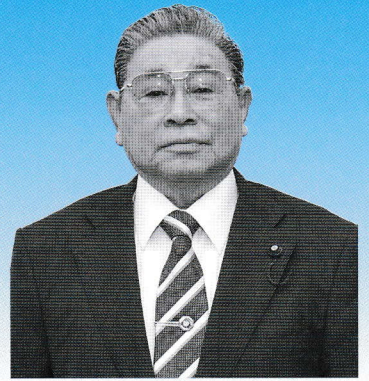
町長

テレビ設置は駅舎改修の際効果的な位置に新設を検討している。駅舎改修事業の過程で当町が駅舎取得後機器を設置する。

駅舎整備事業は平成32年度末の完

Q 柿木津和野停車場線開通に 地図式案内標識を

A 津和野城下町案内図(文字式)看板が 設置されている



後山 幸次 議員

問 津和野町の南の玄関口なごみの里横に津和野町の商工観光の発展に大いに期待される道路である。県外の観光客のためになごみの空間地帯に津和野町全体がひと目で分かるような地図式案内板を設置し、外枠は稲成の鳥居とか城山の石垣とし、中に町内商店位置を表示されたい。

文字式看板では店舗の場所はわかりにくい。

町長 なごみの里敷地中央部に「津和野旧城下町案内図」の看板が設置されている。県道萩津和野線の交差点には、城下町の案内として「津和野駅」「安野光雅美術館」「太鼓谷稲成神社」の距離表示もされた標識の設置もされることになっている。

中座公園整備について

利用頻度等も考え、順次整備したい

問

高崎亀井邸跡の児童公園は昭和55年に完成され、遊具も整って子どもたちが遊ぶ天国の場所であった。今は昔の面影はない。近年、中座地域に若者が増え、若者の定住が進んで一挙に子どもたちが増えている。状況を見ながら公園に遊具の設置を検討されたい。

公園近くにJR中座踏切があり、SLの写真撮影には最適な場所。狐尾線は車で大渋滞になり、自治会でも駐車場の確保はされているが、公衆便所がなく付近住民には大変迷惑な問題がある。

る。幸いに狐尾線は公共下水道も完成しており、児童公園の公衆便所を改修すれば津和野観光の一助にもなる。早急に検討されたい。

町長 SL運行時、中座踏切付近には警備員を配置し、交通整理を行い、路上駐車禁止、アイドリング禁止の看板を設置し、児童公園トイレの案内、立ち小便禁止の看板も設置している。トイレの改修は予算も伴うため、町全体として利用頻度も考え、順次整備したい。

日原賑わい創出拠点事業の総事業費は

ソフト事業、ハード事業総額4億8653万3千円。

問

町との内部調整、財源検討、所有者協議と現在も改修工事が進められている。当初事業計画では、ハード整備関連事業6項目4億2492万7千円、ソフト関連事業6項目3824万2千円、概算総事業費合計4億6316万9千円。地方創生交付金額について問う。

町長 ハード事業では古民家3棟改修工事、実施設計、空き家2棟解体造成で1億69万1千円。

今年度は、工事カフェ棟、図書館棟、トイレ棟、駐車場設計監理委託料の合計は3億4204万3千円である。

ハード整備関連事業の総合計は4億4273万4千円。ソフト関連事業費では、

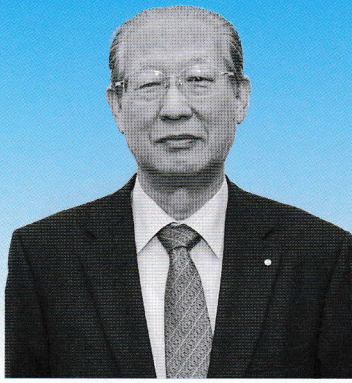
駅前周辺整備について

施行計画の精査をする

問

駅前整備について当初計画通り、進捗するの。

町長 基本的には変更はないが、SL移転箇所付近は修正検討を行っている。



丁 泰仁 議員

Q 今年度公共工事発注予定は

A 概ね土木建設工事を中心に 秋口発注予定

問

災害復旧工事完了後、公共工事発注量が減少し、町内に活気が見られず個人消費も減退している。

今年度の町の工事発注は。

町長 中座団地2階建家屋6戸と土井敷団地のストック改善工事を始め道路改良工事、落石対策工事、冠水対策工事、橋梁長寿命化対策工事など11件の工事の発注準備をしているところであり計画的な執行をしていく。

問

現在様々な種類の公営住宅がある。ま

た空き室も多く見られると聞く。これらの「住宅の種類」と空き室状態は。

町長 住宅の種類は「町営住宅」「町一般住宅」「つわの暮らし推進住宅」「地域有料賃貸住宅」であるが「地域有料賃貸住宅」は今後新たに建設予定。それぞれ入居資格が所得制限を始めとして様々に異なる。

空き室状況は、津和野地区28戸、日原地区14戸、町一般住宅30戸である。

JR津和野駅舎改修工事の完了は

平成32年度末までに完成

問

観光関連の主な工事計画、駅前ロータリー、駅舎改修工事は。

町長 養老館改修工事、殿町から稲成丁弥栄神社へ繋がる灯籠整備工事、サイン整備工事、公共無線LAN(Wi-Fi)整備工事などが進行中。

津和野駅舎、ロータリー関連工事は平成32年度完成予定。

問

個人消費を喚起させる直接的な計画企画はあるか。

町長 本年度を一応の区切りとするプレミアム商品券販売に関する商工会補助金は消費を喚起する直接的な施策と考える。

問

この企画は550万円の補助金で経済波及効果は約4500万円であった。これを止めた場合、これに匹敵する、個人消費に経済波及効果を及ぼす他の企画を考えているか。

町長 今現在考えてない。今後検討してみたい。

問

滞在型観光に必要なトイレ、公園等の便宜供与施設の完成度は。

町長 平成20年度以降、津和野地区公衆トイレ6カ所の新設、更新を完了。

今後津和野駅改修に伴う、休憩場所の設置や公園整備などを計画している。また「鷺原公園」「堀庭園」へのアクセスに欠かせない周遊バスの運行については、関係者等が協議を開始している。

問

最近増えているインバウンド客の宿泊滞在に欠かせない便宜供与施策「Wi-Fi整備」「多言語化サイン」「多言語化メニュー」などの整備進捗状況は。

町長 「Wi-Fi整備」事業については津和野中心エリア8カ所に施工を進めており6月末完成予定。

7月以降試験運用を開始予定。多言語化や通訳の常駐については、高津川通訊案内士、国際交流員、日本遺産センター外国語スタッフなど人員の充実も進んでおり、「インバウンド対策会議」の活動を通じて改善を

図る。

問

滞在型観光での「夜の楽しみ方」の周知

は。

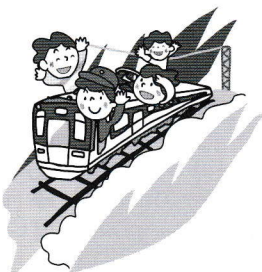
町長 観光協会のホームページやチラシをはじめ、旅館組合から宿泊者、観光客への周知を行なうと共に、ケーブルテレビを活用し、音声、テロップ放映による町内周知を行なっている。

問

町内宿泊施設の現状は。

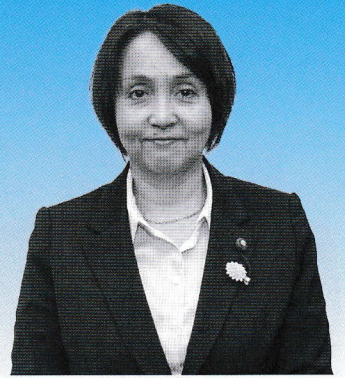
町長 廃業や休業、人手不足による自主的宿泊制限など町全体の宿泊キャパシティが下がっており観光客の入込を図る上で問題になっている。

現在営業している旅館等の利用状況についても、季節ごとの波はあるもののほぼ横ばい状態で、宿泊キャパシティの不足を補うほどではない。



Q 放課後児童クラブは 民間委託で課題解決がされたか

A これから取り組まれる



寺戸 昌子 議員

問

地元運営の畑迫あじさいクラブ以外の町内4つのクラブ（つわのっこクラブ、日原ひまわりクラブ、あおぞらクラブ、きべっこクラブ）が、今年4月から民間企業へ業務委託されたが、委託の目的である、「不足する職員の確保」「職員の待遇改善」「職員研修の充実」は行われているのか。

町長 4月から放課後児童支援員1人、補助員2人合計3人を新たに採用している。3月に退職された方もいるので結果として合計で1人増えている。

賃金については、支援員資格所有者、支援員資格取得予定者、補助員によって、また地域性を踏まえて決定されているということ。町が運営していた時点より時給で26円→130円増額されている。

高校生まで医療費の無料化を広げるべき

財政状況を考慮すると困難

問

現在、津和野町では中学生までの医療費無料化が行われ病気の重症化が防げると大変喜ばれ

研修は、人材育成研修を行ったと聞いている。今後、も防犯や安全のための研修、他地域の職員との合同研修などが予定されている。

問

「5月に入り、委託したクラブのうち1カ所において4月から支援員が配置されていないことが判明した。

委託業者に早急に対応するように指導した」とのことだが、このように重要なことでも委託業者と町の連携がとれないなら委託するべきではないのではないか。

町長 今年度が委託をして初めての年となる。見直せるところを見直しながら、きちんと指導体制を取りしっかりとやっていきたい。地域で放課後児童クラブの運営の希望があれば可能と考えている。町の直営に戻すことは考えていない。

保

護者の収入の格差が、子どもの健康に影響を及ぼすようではいけない。また、

子育て世帯の定住のためにも今の中学生までの医療費無料化を高校生まで広げ、より安心して子育てできる町にするべきではないか。

問

町内の高校生までの医療費を無料にした場合の財政負担額は、**町長** 町内の高校生の医療費がいくらかかっているか

救急患者搬送先病院等の決定は

消防本部の通信指令室、医師の判断による

問

救急患者として搬送される場合、運ばれる方法や病院はどのようにして決まるのか。

町長 救急患者の搬送は緊急通報受診の際、通報者との通話において、消防本部の通信指令室が必要と判断すればこの段階でドクターヘリを要請する。

また、救急隊員が現場到着後、ドクターヘリを要請することもある。

ドクターヘリを要請した場合でもヘリ搬送するか救急車での搬送とするかは医師の判断による。ドクターヘリは搬送の手法以上

は資料がなく不明だが、参考として、平成29年度の町内中学生への医療費助成額は266万円となっている。

問

津和野町の一般会計予算は90億近くある。約260万円は出せないのか。

町長 小さな一つひとつの事業の積み上げで予算ができています。

費用対効果を考えて子育て支援策の中で検討しています。

に患者により早く医師の診察を受けさせることが主目的。搬送される病院の決定は、益田日赤、医師会病院、六日市病院が救急指定病院であり、原則としてこれらの病院に搬送する。かかりつけ医への搬送も考慮する場合がある。

問

自治会や町内会の集会所、災害の一次避難場所

にAEDを設置すべきではないか。**町長** 27カ所の指定避難場所のうち残り6カ所にまだ設置していない。

指定避難場所への設置をまず進めたい。

提出者	第4回 (6月)定例会 賛否表 ○＝賛成 ●＝反対 欠＝欠席	草	米	川	道	板	丁	御	三	寺	後	岡	結
		田	澤	田	信	垣		手	浦	戸	山	田	果
町	藩校養老館調査保存修理工事請負変更契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	平成29年度津和野町立学校施設空調整備工事請負変更契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	平成29年度中座地区下水道管布設工事請負変更契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	小型動力ポンプ付き普通積載車の取得	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	津和野町日原賑わい創出拠点施設の設置及び管理に関する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	つわの暮らし推進住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	津和野町国民健康保険税条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	可決
	津和野町伝統的建造物群保存地区保存条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	津和野町立小中学校施設設備の利用に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	平成30年度津和野町一般会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	// 国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	可決
	// 介護保険補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	// 後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	// 下水道事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	// 農業集落排水特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	// 診療所特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	// 介護老人保健施設事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議員	津和野町役場本庁舎の津和野地区への移転と新築を求める請願についての特別委員会の設置	●	○	●	○	●	●	●	●	●	○	●	否決
	津和野町役場本庁舎の津和野地区への移転と新築を求める請願	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	採択
町長	第3回 5月臨時会												
	【専決処分の承認】津和野町税条例等の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
	【専決処分の承認】津和野町国民健康保険税条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認

全員協議会

●津和野町定住推進住宅整備

☆津和野町地域優良賃貸住宅

森村地区内に単身棟8戸家族棟4戸の計12戸建設予定※民間事業者が資金を調達し、国の交付金と入居者の家賃収入で回収が可能。

☆津和野町つわの暮らし推進住宅

畑迫地区内に2～4戸建設予定。入居者は町外に限る。平成31年2月までに2件以上の入所希望者がいない場合は、事業を中止する。事業費は起債(過疎債)と家賃で賄う。町の公債(借金)比率が上昇することが問題点である。

●アユの放流事業について

昨年の活きアユ取扱量は、豊漁時の半分程度まで回復しており、合計では不漁であった平成28年の3.5倍に伸びた。本所では昨年の出荷量が1010kgで3倍弱の伸びであったが、日原支所では589kgで7倍弱の伸びとなっている。

左鐙・日原・青原地区での稚アユ放流量は21万尾である。

が、津和野町による特別放流7万尾により他地区より3割増しの放流量となり、放流種苗も卒に良く掛かると評判の良い鹿児島県鶴田湖(海産系)由来のものであったため、日原支所の出荷量が大きく伸びたものと思われる。昨年のアユの放流事業の効果が検証された。

今年も稚アユ放流事業の要望があり、町の経済効果も高く、引き続き昨年同様に事業実施して行きたい旨が説明された。

●映画「高津川」制作への支援

島根県出身の映画監督である錦織良成氏が益田圏域を訪れて「島根の石見地方から全国、世界へ発信できる映画の制作を進めたい」との思いを示され、制作経費の一部の支援依頼が益田圏域市町村にあった。

高津川流域を物語の舞台とする映画の制作により、全国的な認知度の向上と流域が持つ豊かな自然や濃密な人間関係といった地域の魅力を全国に向けて発信することで、交流人口の拡大を目指す。

支援依頼の内容は①制作予算2億5000万に對し、制作協力費・広告宣伝費の助成金支援として、5000万円（県2500万円・益田圏域2500万円）の依頼があった。津和野町の負担は約600万円となる。②映画制作への後方支援（エキストラ募集協力・ロケ地情報協力）である。

請 願

【請願要旨】

現在議会において検討が行われている役場本庁舎と第二庁舎の移転、更には津和野庁舎の耐震改修問題について、改めて計画の見直しを行い、役場庁舎を津和野庁舎隣接の県有地を取得して新築、津和野庁舎の耐震化と併せて本庁舎とすることを希望するもの。

●動議

「津和野町役場本庁舎の津和野地区への移転と新築について」の請願審査に対する特別委員会の設置について

発議者 道信 俊昭

賛同者 後山 幸次

動議成立

採決の結果、賛成3人・反対8人で否決

請願審議の冒頭、当請願の審議について特別委員会を設置し、特別委員会において審議をする、という旨の提案（動議）が議員より提起されました。議会はこの動議を否決。

よって本会議において審議・採決をしました。

●津和野町役場本庁舎の津和野地区への移転と新築について

請願者

津和野自治会連合会

会長 山田 實

本部地区自治会連絡協議会

会長 坂根 敏夫

畑迫地区自治会連絡協議会

会長 齋藤 誠

小川地区自治会連絡協議会

会長 大羽 仁

紹介議員

板垣 敬司・米澤 右文・

丁 泰仁・御手洗 剛・

道信 俊昭

☆請願紹介議員代表趣旨説明

板垣 敬司

本庁舎の位置をいつかの時

点で論議しなければならぬと思っていた。今後の人口減少、自主財源を確保していき、津和野の経済を活性化することを考えた時、観光を中心にしていくしかなく、津和野地区に本庁舎を置くことの方が利点があると考えた。

今一度診療所への本庁舎の移転と併せて考えるべき。

採決の結果、賛成6人・反対5人で採決

【請願とは】

法律用語においては、国や地方公共団体に意見や要望、苦情の要請を行う事

採択：願意が妥当であり、法令上、行財政上実現性があり、議会として賛同すること。

不採択：当該地方公共団体の事務に無関係のものであったり、当該議会の権限外のものであったり、さらに願意に賛成できない、実現可能性がないといった場合。

■編集後記

6月21日、昼が最も長く夜が最も短い夏至が過ぎ、これから逆の12月22日の冬至へ日が進みます。

昭和62年から平成30年の31年間、津和野観光に大きく貢献したC56型蒸気機関車（通称ポニー）のD51との重連引退運行が5月6日ありました。前代未聞の鉄道ファンで、沿線の道路と山道は人々で埋まりました。大正14年製造から79年間、ご苦労様でした。

新しくは4月22日（日）投票の津和野町議会議員選挙は旧津和野町・旧日原町・平成17年合併津和野町を通して町政史上初の無投票で12人の議員が誕生しました。

議長・副議長・総務経済常任委員会6人（副議長含む）・文教民生常任委員会6人（議長含む）・両常任委員会から3人選出の広報広聴委員会の配属が決まりました。

これからの4年間、3月・6月・9月・12月の議会定例会後に「つわの議会だより」を作成配布し、皆様にお知らせいたします。

本紙の感想を議会事務局にお寄せいただき、今後の編集の参考にして行きたいと思えます。宜しくお願いいたします。

米澤 右文

広報広聴常任委員会

◎米澤 右文 ○寺戸 昌子

川田 剛 三浦 英治

草田 吉丸 岡田 克也